

決議案第 4 号

「公立高等学校配置計画案（平成30年度～32年度）」の見直しについて

別紙のとおり決議案を提出する。

平成29年 6 月 23 日提出

提出者議員	峯	泰	教
賛成者議員	野	尻	清
〃	豊	岡	義博
〃	平	野	義文
〃	石	黒	武美
〃	上	田	久司
〃	斉	須	正友

「公立高等学校配置計画案（平成30年度～32年度）」の見直しを求める決議

北海道教育委員会は、6月6日、「公立高等学校配置計画案（平成30年度～32年度）」を公表し、空知南学区については、平成32年度に岩見沢農業高等学校において1学年7学級を6学級に削減するとしている。

道教委は、その理由について、平成32年度に学区内の中卒者数が減少する、中でも岩見沢市で1間口に見合う減少があること、また、平成29年度の入学者選抜において、岩見沢市内の高校4校の合計で40人の欠員が生じていることから、岩見沢市での間口減は避けられず、これまで定員調整しておらず、規模が大きい岩見沢農業高校を対象とせざるを得ないとしている。

専門学科のみの岩見沢農業高校は、道内全域からの出願者で定員を満たしているのであって、学区内の中卒者数が減少することは学級減を実施する理由とならない。

道教委は、志望校の間口が減ったために他校を受験せざるを得なくなった生徒が欠員の多い学校よりも学区外の学校を選択するため、一向に学区内の欠員が解消されないという実態から目を背け、高校づくりの理念や将来展望を持たずにその場しのぎの単なる数合わせを行おうとしている。

岩見沢農業高校は、実践的な知識・技能を習得させる教育課程、大学や研究機関、企業や農業団体、また、地域住民と連携した先進的な取り組みにより、国際基準の生産工程・環境づくり、付加価値の高い商品開発や食品加工など、全国的にも高い評価を得て産業振興に寄与する貴重な人材の育成に教職員、生徒が一丸となっている本道農業教育の中心校である。

かかる熱意ある学校経営と傑出した教育活動が無残に切り捨てることとなる学級減は、学校関係者がふびんであるばかりでなく、将来、同校への入学を志望する子どもたちの夢を砕き、また、北海道の地域振興並びに農業と関連産業の発展に必ずや大きな禍根を残すものとなる。

平成32年度は、高校の新たな学習指導要領が本格的に実施される時期に当たり、それを踏まえた学びの質の転換や大学入試制度の見直しへの対応に当たっての小規模校のあり方などの検討を迫られるのが必至の状況である。

道教委は、現行の「新たな高校教育に関する指針」にかわる、次世代を見据えた高校づくりのための「新たな指針」を示したうえで空知南学区における定員調整の方向性を議論することとし、その上で希望する全ての子どもに高校教育にふさわしい教育環境を保障し子どもたちに希望を与え、地域の将来も見据えた配置計画を策定すべきである。

よって、今回示された「公立高等学校配置計画案（平成30年度～32年度）」を見直すことを強く求めるものである。

以上のとおり決議する。

平成29年 6 月 日

岩見沢市議会